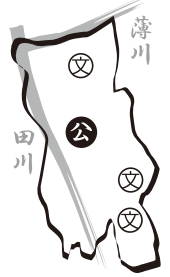


館報

庄内



庄内地区	
令和6年3月1日現在人口	
世帯数	7,262戸
男	7,313人
女	7,282人
合計	14,595人
発行 庄内地区公民館	
(ゆめひろば庄内)	
電話 24-1811	
FAX 24-1812	

『やろう！いき百』

「いき百」とは?!いきいき百歳体操と言い、高知県発祥の「おもり」を使った高齢者の筋トレです。ゆっくりとした動きなので体力に自信のない方や初めての方でも気軽に始められます。映像を見ながら1回約40分の運動を毎週続けると身体にうれしい変化が!また、仲間や町会でやればお互いに励まし合って楽しく続けられます。運動して、おしゃべりして、まわりの「石」を飛ばして、「いきなりはちょっと不安...」と思っている方は庄内地区内の「いき百」に是非参加してください。

問い合わせが来ています。さあ、やるなら今でしょ! (笑) 開催場所の詳細い内容、お問い合わせ、又は「いき百」開催希望者は庄内地区生活支援員森下までお電話ください。
☎070-86084-80024

【おいでや・ほくほく堂】
毎週水曜日13時30分~



【並柳団地集会所】
毎週土曜日14時~



【神田公民館】
毎週土曜日10時~



【筑摩公民館】
毎週月曜日10時~



参加者の声

- 1年後、体力測定をしたら数値がアップしていて嬉しかった
- 身体を動かす時など生活するのが楽になった
- 草むしりの時に身体が辛くなくなった
- 歩いていて、つまずかなくなった
- 現状維持!! 今以上の老化を防ぐ
- みんなで集まるのがうれしい

新春落語会開催

1月17日地区公民館で新春落語会を昨年引き続き開催しました。コロナも種類となり通常どおり再開できました。

松本落語会のご厚意もあつて橋家圓太郎師匠をお招きしました。

40人ほどの聴衆を前に軽妙な語り口と話題から、いつしかお話に吸い込まれていきました。お話が楽しかったことは言つまでもありません。

そこでお話の前後など私が観察した師匠の様子などを書きます。

1 高座つくり

師匠が座るステージを高座と言います。天皇の玉座、僧侶が座る高座など有名。

軽トラに角材で組んだフレームと天板、赤い毛氈、そして階段を乗せて落語会のスタツフがやってきました。手作り感いっぱいです。

2 演目は未定

師匠は開演前から公民館内を歩きながら掲示物に目を通してあります。庄内ではどんな事に取り組んでいるか? 公民館に集まる方々は何かが関心事か? など偵察の様子。演目をスタツフに聞いても分か

らない、お客様の顔を見て、冒頭のあいさつ口上の反応を見てお話が進む、お客様の想像力に応じた展開との由。小生は知ったかぶって、ふむふむ。

3 誠実な人柄

寒い日なので早めに暖房。お客様入場前に音響確認、落語でお馴染みのフレーズをかなり大きな声で繰返される。そして本番が終了し拍手喝采。一枚毎オリジナルの色紙10枚を抽選会で直接手渡す。

トラックに講演道具一式載せ、ひたひた迫る寒き夕暮れ前に師匠は車中の人となりました。

(取材 庄内地区公民館長 梶山三男)



館報と私



『館報編集委員の退任に当たって』

この3月で2年間の館報編集委員の任期を終えることとなりました。最初の1年間はコロナと重なり、館報の記事の内容が町会の紹介中心になり、編集に苦労したことが思い出されます。

2年目に入ってコロナも落ち着き、各種行事の復活でようやく館報の内容も充実し、読み応えのある館報になった感じがしました。特にドリーム庄内の特集号は、多くの良い写真によってイベント全体をよくとらえていたと好評のようでした。

イベント自体も天気に恵まれ、各種目の参加者も一生懸命に取り組まれ、良いイベントになったと感じました。特に多くの子どもたちに参加していただき、非常に喜んでくれる様子がかがわれ、パン食い競争とカレーの配食は大盛況でした。次に印象に残ったのは、7町会合同による避難訓練でした。公民館館長会は情

報伝達班を担当しましたが、今年の1月の能登半島地震の時に伝達の重要性を實際の事象として感じる事ができました。ドリーム庄内のイベント時にも情報伝達の協議がありました。訓練で体験しているといかないのでは、いざ地震が起きたときの行動に差があるように思われました。今後も機会を設けて全員の方に体験してほしいと思います。

2年間公民館長会として、館報編集委員として活動してきましたが、他の町会の活動やサークルの存在を知ることができ、自分の町会の活動の参考になることも多く、有意義な2年間だったと思います。

自分は、公民館長会の活動にたいして貢献できませんでしたが、今後町会の一員として町会活動に尽力していきたいと思っています。小林主事はじめ事務局の皆さん、2年間ありがとうございました。読者の皆さんありがとうございました。

(南新町1丁目町会
町内公民館長 須澤 哲夫)

『館報編集委員回顧録』

2024年がはじまり、新しい何かに触れる年明けとなるはずでしたが、災害にみまわれ、不幸なスタートとなりました。

編集委員をはじめて残り1カ月となりました。最初は何をしているか分からず、ただ参加しているだけの意味のない数カ月でした。そんな時、防災運動会が開かれ、撮影班として任命され、はじめて仕事をしたという気持ちになり、心地良い疲れを感じ、カレーを美味しくいただきました、ありがとうございました。

(館報編集委員 H)

ゆめひろば庄内
(庄内地区公民館)



『町内公民館長を経験して』

令和4年度から2年間、並柳町会の公民館長を務め

ました。就任当時は新型コロナウイルスの感染防止のため、公民館行事の中止が多く、活動の知識がないままに館長を引き受けたのが実情でした。

ところが、当時も公民館では住民グループの体操やヨガ教室、大正琴演奏や絵手紙の習い事、伝統文化の笛や太鼓の練習などの活動が地道に続いていました。

コロナ感染の拡大防止に気をつけながらも、それぞれが楽しさや遣り甲斐を求めて活動を続ける様子は、それまで自分が経験してきた会社勤めの義務感ややらされ感とは違い、意欲的に見えました。

公民館は地域住民の交流の場で、公民館長には利用者がおおきなく活動できる環境を提供する責任がある、ということを経験しました。

今まで町会にかかわる機会が少なかった方々も、広く公民館長など町会役員を経験することで、地域の活動への理解が深まるのではないかと思います。

(並柳町会 町内公民館長 赤羽 伸夫)

『公民館報と関わって』

私が公民館報の存在を知ったのは、図書館の郷土資料コーナーでした。それまで読んだことがなく、「それぞれの地域でこんなことをやっているのか」と感じたことを覚えています。

さて、庄内地区の館報編集委員会は私が公民館へ異動となった年にメンバーが大幅に変わりました。それに伴い扱う内容や記事の書き方にも変化がありました。以前の館報が好きならば、今の記事が好きならば、今更らつしやると思います。

しかし、こういった館報の良さは、書く人、編集する人それぞれの個性が出るから面白いのだと私は思っています。私の仕事は、それをサポートしつつ、必要なことを委員の方と一緒に作っていくことです。

ゆめひろば庄内ができて今年で18年。その間に100を超える館報が発行されました。その歴史を大切にしつつ、「守破離」でより良いものにしていきたいと思

(庄内地区公民館主事 小林 大)